

畑とおさらば



① 稲作の時代

稲作の時代畑は元々「田んぼ」で昭和53年頃迄稲作をやっておりました。小規模農業ではありましたが、作業は今の様に機械化されたものではなく、人海戦術でした。田植えは全部手で植えました。収穫はノコギリ鎌で稲刈りをして、2週間程稲架掛け（竹竿や棒に掛けて天日干し乾燥）し、自然乾燥させた稲を足踏み脱穀機処理して粃になります。その粃を粃摺り機（機械を持っている専門農家に依頼）で粃殻を取り除いてようやく玄米になりました。田植え・稲刈り時等に会社の友人に応援してもらった事もありました。農繁期に人手の応援がなければ出来ない手作業稲作に限界を感じておりました。

② 稲作から休耕田

稲作から休耕田へ減反政策が導入された時代に稲作を止めて大豆その他野菜作りに転作しました。週末農業ですから殆ど休耕田の状態が長く続きました。野菜も何も作物栽培をしないにも拘わらず、草刈りや耕うん機をかけて、田地の状態を維持して来ました。

③ 野菜作り

野菜作りへ定年退職後は、一部を畑として自家用に旬の野菜を栽培して来ました。余った場所をご近所の方・知り合いの方に家庭菜園として使用して頂きながら畑を維持して来ました。ビデオ同好会メンバーのご家族を招いて、サツマイモ堀をした事は今でも大変懐かしい思い出です。

④ 畑じまい

畑じまいかししながら、2018年9月の台風後の跡片付けの際、自らの不注意による事故で胸椎圧迫骨折を受傷してしまいました。現在も完全な元の体には戻っておりません。この先、何時迄畑の維持管理をして行けるだろうか。熟慮の末、「今が潮時」と畑じまいを決断しました。最終的には太陽光発電所へ様変わりました。畑を止めてしまって、すこし寂しい気持ちありますが、大変懐かしい思い出です。